

令和3年度事業報告

1. 事業

(1) 普及啓発

(イ) キャンペーン

がん征圧月間、結核予防週間、がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン時にあわせ、食生活・生活習慣の見直しや検診の重要性を訴える活動を展開した。

- ・やまがた健康フェアはコロナ禍の影響により集客での開催が見送りとなったため、実行委員会で作成したガイドブック「やまがた健康ガイド2021」に、がん検診及び特定健診・特定保健指導に係る記事と、山形県がん総合相談支援センターの広告を掲載し、山形新聞購読者及び関係各所へ配布した。
- ・コロナ禍の影響により、当法人独自のイベント開催は見送りとした。
- ・自治体等が主催する地域のイベント等へ協力・参画した。

1) 酒田市松山地域「松山健康福祉フェア」

- ・広報パネルの貸出
- ・ノベルティ80部配布

2) 山形県、庄内保健所、管内市町村（3イベント同時開催）

（庄内南部・北部がん検診受診向上キャンペーン）

- ・広報パネルの貸出
- ・ノベルティ1,000部配布

3) 酒田共同火力発電（株）

- ・広報媒体DVD貸出
- ・パンフレット100部配布

(ロ) 広報教育媒体物の整備貸出し

市町村や事業所等4団体に対し、広報媒体物の無料貸し出しを行い、健康まつりや健康教育で疾病予防の啓発を図った。

- ・貸出物：DVD、模型、パネル、測定機器等

(ハ) 健康機関誌等の作成、配布

- ・機関誌「しあわせ」の発行（年2回）

がん・結核の知識とその予防方法などを収録し、県や市町村、婦人団体等を通じて広く県民に配布した。

- ・各種チラシ、パンフレットの作成、配布

禁煙教育パンフレットを作成し、市町村、事業所、学校等のほか、検診の受診者に配布した。

(ニ) 健康づくり組織活動

- ・山形県結核成人病予防婦人団体連絡協議会

令和3年度の事業は、コロナ禍の影響によりほとんどの事業が中止となったため、同団体の活動への助成を見送りとした。

(ホ) その他の普及啓発

- ・会議、研修会の開催や講演会等へ医師、保健師、管理栄養士、運動指導士を派遣し普及啓発を行った。

（一部、WEBシステムを活用）

(2) 各種検診の実施、二次予防の推進

検診の申し込みの取り纏めから、問診票発送、検診、結果送付、保健指導（健康相談）、精密検査受診勧奨まで、疾病の早期発見、早期治療につながる一連の検診サービスを提供し、県内5ヶ所の検診センターにおいては、施設や施設外では14台の検診車を活用し、離島やへき地のほか、検診機関に足を運ぶことが困難な社会的弱者を対象とした社会福祉施設検診を含め、不特定多数の県民を対象に健康診断を実施した。

(イ) 検診事業

・県内の地域住民や職域職員を対象に健康診断を実施した。

1) 特定健康診査	53,802 件
2) 人間ドック	33,763 件
3) 全けんぽ協健診	36,068 件
4) 定期健康診断	65,450 件
5) 胃がん検診	88,616 件
6) 大腸がん検診	130,458 件
7) 子宮頸がん検診	35,983 件
8) 乳がん健診	34,748 件
9) 肺がん検診	86,694 件
10) 結核検診	106,127 件
11) 腹部超音波検査	32,956 件
12) 学校検診	36,837 件
13) 前立腺がん検診	19,706 件
14) 骨密度測定	14,590 件
15) 肝炎ウイルス検診	3,981 件

(ロ) 事後管理

・検診結果には過去分も含めて表示し、体調の変化が分かり易いように通知。検診と健康相談の同日実施や結果に基づく食生活・生活習慣改善等の指導のほか、精密検査の受診勧奨を行った。

- 1) 検診結果の通知
- 2) 保健指導（事後指導）、健康相談
- 3) 精密検査の受診勧奨

(3) 資料収集（検診データの有効活用）・調査研究協力

当法人は、予防医療のレベル向上や健康づくり施策に役立つデータを活用することで公衆衛生の向上に寄与することを目的に、述べ400万件にのぼる膨大な検診データを収集・蓄積している。同データを、県や市町村へ無償提供するほか、学会や検診委員会での報告等を通じて地域医療のレベルの向上に努めた。

(イ) データ収集

・調査研究等に活用するため、7年分の検診データを蓄積。

[検診データ7年分]

1) 総合健診	約 1,321,000 件
2) 胃がん検診	約 677,000 件
3) 大腸がん検診	約 900,000 件
4) 子宮頸がん検診	約 264,000 件
5) 乳がん検診	約 254,000 件
6) 肺がん検診	約 607,000 件
合計	約 4,023,000 件

(ロ) データ提供等

・「事業年報」の発刊

地域の疾病構造を明らかにし、県民の健康づくり施策に有効活用してもらうため、「事業年報」を作成し、県、市町村、関係機関等へデータの提供を行った。

・経年的データの提供

経年的データを4機関へ提供した。

- 1) 日本乳がん検診学会 「平成30年 乳がん検診の全国集計」
- 2) 日本消化器がん検診学会 「令和元年 消化器がん検診実態調査」
- 3) 山形県 「令和2年 がん検診成績及びがん検診実施状況調査」
「令和2年 胃及び大腸がん検診で発見された消化器がん患者調査」
- 4) 山形県医師会 「令和2年 各種検診中央委員会における資料」

(ハ) 調査研究協力

・40歳代の乳がん発見の調査研究協力

(厚生労働省化学研究費による第3次対がん戦略研究事業)

乳がんの早期発見・早期治療を推進するため、超音波検査の有効性を検証するための比較実験に対して協力し、研究対象者の追跡調査を行い、要請に基づき研究機関へ報告した。

(ニ) 学会発表、講演、講話

・当法人に蓄積された検診データを活用し、学会等において論文等を発表し、検診精度の向上と職員のスキルアップに努めた。

- 1) 日本人間ドック学会 「特定健康診査における階層化区分毎の健康状態の変化と特定保健指導の効果について」
管理栄養士
- 2) 日本総合健診医学会 「表計算ソフトと一次元バーコードを活用した確実な検体受領管理システムの構築」
事務職員
- 3) 新・症例から考える高血圧勉強会
「健診における血圧測定方法の現状」
看護師
「高血圧患者における家庭血圧測定の現状」
看護師
- 4) 山形県公衆衛生学会 「検診機関職員におけるファイザー社製新型コロナウイルスの副反応について」
事務職員

・様々な講演会等で、当法人の医師、保健師、管理栄養士、運動指導士が蓄積された検診データを活用し講演講話を行い、広く県民の健康づくりの意識高揚に努めた。

(4) がん総合相談支援事業

(イ) ピアサポート活動の推進

県民や医療関係者などの理解を深めるために、ピアサポートセミナーの開催や、医療機関や患者会等と連携し、ピアサポーターの派遣及び活動場所の紹介等を行うなどの活動支援のほか、先進地視察やピアサポーター交流会を開催するなど、情報交換の機会を提供するなど、ピアサポーターの養成及び活動支援を行った。

・ピアサポーター養成事業

- 1) 研修会① 7/18開催
- 2) 研修会② 11/14開催

・がんサロンの充実

- 1) がんサロン（山形C） : 3回開催
- 2) がんサロン（庄内C） : 3回開催

※拠点病院でのサロン開催、先進地視察はコロナ禍により中止した。

(ロ) がん相談

県内（山形、庄内、最上、米沢、南陽）5つの検診センターを活用し、「がん」かもしれないと不安を感じた時から、医療や就労などの様々な悩みについて気軽に相談できる窓口を設置し、病院では相談しにくい問題を抱えるがん患者やその家族などの不安の軽減に努めた。

・窓口相談・電話相談（計237件）

- 1) 山形検診センター 200件
- 2) 庄内検診センター 25件
- 3) 最上検診センター 6件
- 4) 米沢検診センター 5件
- 5) 南陽検診センター 1件

・出張相談

- 1) イオン三川店 (10/2)
- 2) 山辺町中央公民館 (11/29)

・相談員（職員）のスキルアップ及び養成

- 1) 研修会に4回参加
- 2) 所長（医師）によるカンファレンスを月1回実施した。（4月から3月）
- 3) がん相談支援センター相談員研修
 - ・基礎研修（1）（2）知識確認コース1名修了
 - ・がん相談員自己評価表記入実施（年2回）

(ハ) その他関連する業務

がん総合相談支援センターの事業内容等を広く県民に知らせる広報を行うとともに、県内に設置しているがん相談支援センターと連携し、がん相談窓口の周知を行うなど、市町村広報誌や報道機関への情報提供等により業務内容を広く周知した。

・周知（掲載等）方法

- 1) やまはび村山地区 (2回)
- 2) 商工さかた (1回)
- 3) 庄内コミュニティ (1回)
- 4) 県政広報番組（やまがたサンデー5） (1回)
- 5) やまがた健康ガイド2021